隣接都市との「境界点探査」第3回(最終回)

2019.11.21

境界点(線)	境界都市	場所の説明
1	茅ヶ崎	汐見台小近くの海中から境界線が立ち上げる。
2	茅ヶ崎、寒川	小出川沿いの湘風園付近
3	寒川、海老名	新幹線際、富士ｾﾞﾛｯｸｽと平塚ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ脇の路上
4	海老名、綾瀬	目久尻川に架かる用田橋下
5	綾瀬、大和	小田急藤沢ｺﾞﾙﾌ場内
6	大和、横浜	境川水中
7	横浜、鎌倉	大鋸1190-3付近、境界杭有り
8	ほてる汐彩付近を境界線が通り海中に没す	

苦節8か月・・・・待ちわびたこの時がついに来た～！

3月の会長会で、三堀・入町シニアクラブ会長が構想を発表し、篭嶋・遊四若葉会会長と共に下見を重ね、8か所の内、残すは5,7,8の3か所。トリを飾るは、篭嶋隊長以下、山崎、池田、權頭の常連4名に、初参加の鶴海さん、途中参加の三堀さんを加えた総勢6名。

2019年11月21日、小田急藤沢駅に集合した一行は、午前9時51分発の各駅停車に乗り込んだ。第2回目と同様、長後駅で下車し、さがみ野行のバスに乗車。10時15分、並塚バス停で下車し、第⑤地点の探査開始。

ﾊﾞｽ車中、優先席の3名

新幹線をまたぐ橋を渡り、老人施設「福田の里」の先が目標地点。畑の中の畦道に境界を探す。

目標地点は、ゴルフ場の中のため、フェンスに掲げられた看板の前で記念撮影してこの地点の探査完了とした。

並塚11時41分発のバスで長後駅に戻り、電車で六会日大前駅迄移動。駅構内のコンビニで昼食を確保し、神奈川県立境川遊水地情報センターを目指す。

立派な施設である。平日の昼間とあって見学者は少ない。ロビーのテーブルで昼食後玄関で記念撮影し、予定になかった横浜市(戸塚区と泉区)と藤沢市の境界点を川の中に確認した後、六会日大前駅へ戻る。

藤沢駅へ着いた後、鶴海さんと交代した三堀さんを交えた5名は、午後2時30分藤沢駅北口発のバスで鉄砲宿へ。

必死で探す！

事前調査では、鉄砲宿近くの境界点⑦は、昭和63年に関係者(藤沢市、横浜市、鎌倉市)立会の下、境界杭が埋設された、とのことであった。

しかし30年経過した現在、いくら探せどそれらしき標識は見当たらない。居合わせた地元の人が丁寧に今までの経過を説明してくれたが、標識そのものは不明とのこと。

やむを得ず、藤沢市と横浜市の境界と思われる舗装の継ぎ目の延長線上の山林の中が目標地点と推定した。

今回の探査行の中で、唯一明確な標識があるものと思っていただけに、それまでの疲れが一気に出る。重い足を引きづりながらバスで小田急藤沢駅へ向かった。

午後4時25分藤沢発の電車で江の島に向かう。

目指す**第⑧地点**は、藤沢市と鎌倉市の境界線である。

国道134号線沿いにある「ほてる汐彩」を過ぎたところが目標地点。ここも標識はなかったが地図上で確認。この境界線が伸びる砂浜へ降り、夕陽の中にシルエットで浮かぶ江の島や箱根の山々を見ながら、5名の高齢者は何を思うのか‥‥

予定の8か所の探査を終え、江の島を望む所で打ち上げを、と探したが適当なお店は見当たらず。やむなく藤沢へ戻り、北口の「日高屋」2階を貸し切って?豪華絢爛な慰労会が始まった。

「3日間とも天候に恵まれたが、残念ながら明確な地点は1か所も確認できなかった。1回目は夏の名残で暑く、3回目の今日は冬の寒さ。普段あまり意識しない境界点を探し、新たな発見や色々な人との出会いもあった。この成果を、どのような形で生かしていくのかを改めて考えてみたい。」との篭嶋隊長の言葉で今回の探査行を締めくくった。

～以下、記者独白～

手持ちの歩数計を見ると、朝の藤沢駅集合から夕方藤沢駅に戻った時点で18,000歩。しかし、自宅で確認すると22,000歩。謎の4,000歩は何を語るのか‥‥

思えば長く振り返れば短い257日間であった。構想発表から探査完了まで、酒を断ち身を清め(??)、3回8か所の境界点を巡った。

境界探査を無事終了し、改めて思うは「故郷(ふるさと)ふじさわ」へのオマージュか。

あなたの故郷はどこですか？と問われれば即座に「ふじさわ」と答える。「ふるさと」は出生地ではない。嬉しい時、悲しい時‥‥すべてを優しく包み込み、安心と安堵を与えてくれる場所。2人の子供を育て、1人老いていくこの地こそ、我がふるさと。

I love me. そんな藤沢に住んでいることに誇りと感謝を持ちつつ、郷土防衛に少しでもお役に立てたら、幸いである‥‥

（取材:ゆめクラブ藤沢東部地区･情報通信部会員）